

オンラインワークショップ  
CMSを利用した  
デジタルアーカイブの構築

2020/9/11

筑波大学図書館情報メディア系  
附属図書館研究開発室  
宇陀則彦

# デジタル世界の変化

- コンテンツ構築の時代（1995～2005...）
  - 個々の機関がデジタル化を進めた時代
  - Digital Library Initiative(DLI)
  - American Memory
  - 近代デジタルライブラリー
- コンテンツ共有の時代（2003～2010...）
  - 機関をまたがって横断検索システムを構築した時代
  - nihuINTにいたる資源共有化プロジェクト
- コンテンツ集約の時代（2008～現在）
  - Europeana、DPLA、ジャパンサーチなど巨大ポータル
  - APIによる相互利用技術の発展

# トリプルアイエフ(IIIF)

- IIIF: International Image Interoperability Framework
- 2011年から2016年にかけてヨーロッパの大学図書館や大学図書館が共同で開発した、画像を公開し共有するための共通規格である。
- IIIFは画像表示の際の属性指定、画像ファイル群の構造記述を共通化し、ビューワーが一つあれば、世界中のデジタルアーカイブの画像を自由に取り込み、比較し、アノテーションを付与し、公開することが可能になる。

ちかひこ  
鈴木親彦らによる研究

『遊行上人縁起絵』 顔コレ

第三卷第一段「大衆に飲食を施す」の顔貌比較

金光寺本

遊行寺甲本

遊行寺乙本

真光寺本

金蓮寺本

一遍



1



2



3



4



5

他阿



6



7

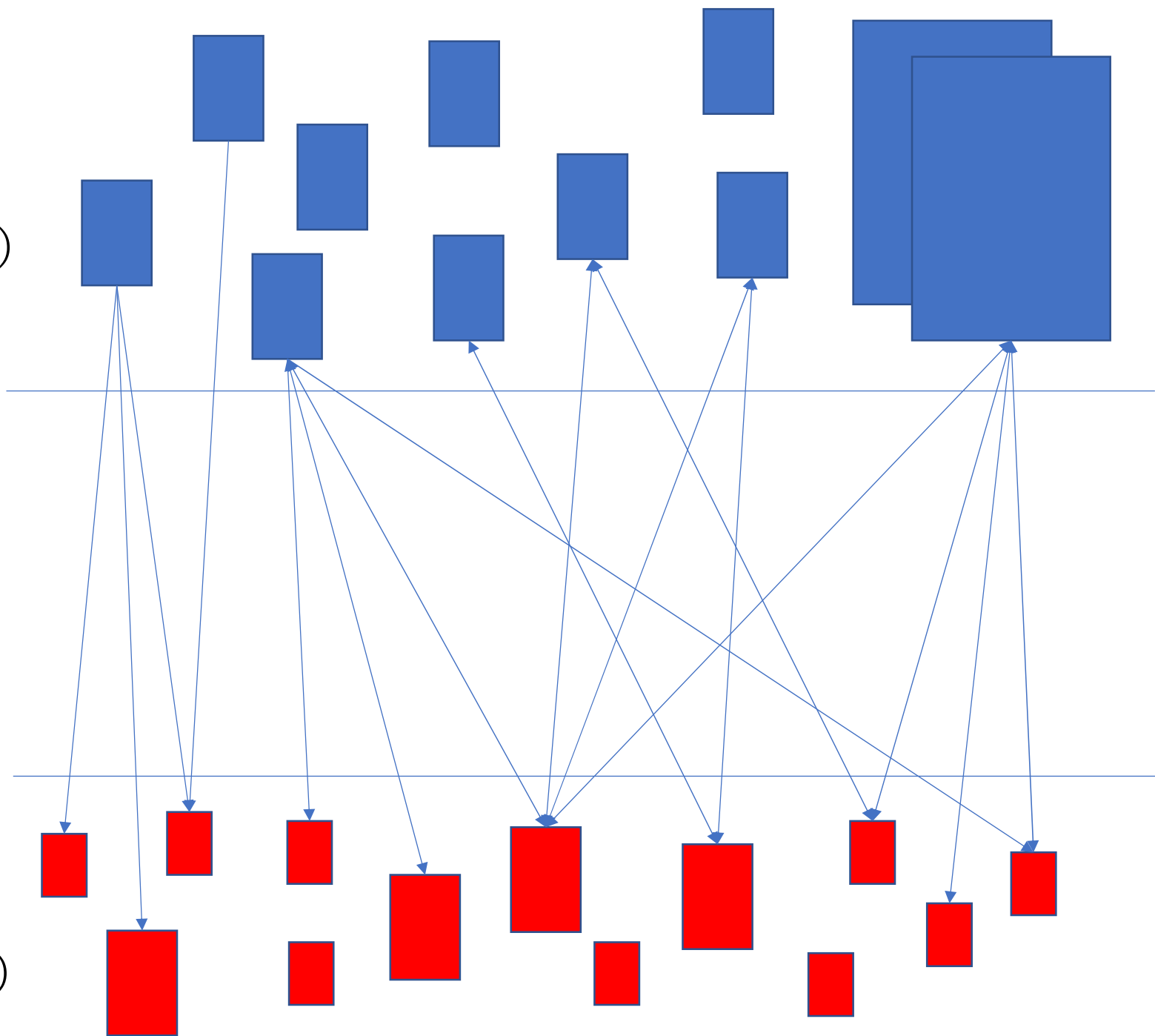


8

# IIIFの可能性：新しい図書館サービス

- 研究者個人が自らのIIIFビューワーに自由に画像を取り込めるのであれば、これを図書館が行い、コレクション形成してよいのではないか。
- 図書館が巨大なIIIF 画像空間から利用者のためにコレクション形成を行うサービス
  - 「ユビキタスコレクション」と名付ける。
- そして、利用者のIIIF コレクションと比較し、足りない画像を自動的に補うサービス
  - 相互援用型コレクションサービス：  
Mutual Invoked Collection Service **MICS**（ミックス）  
注：invoke: 起動する<コンピュータ用語>、神様に祈る、呪文で呼び出す

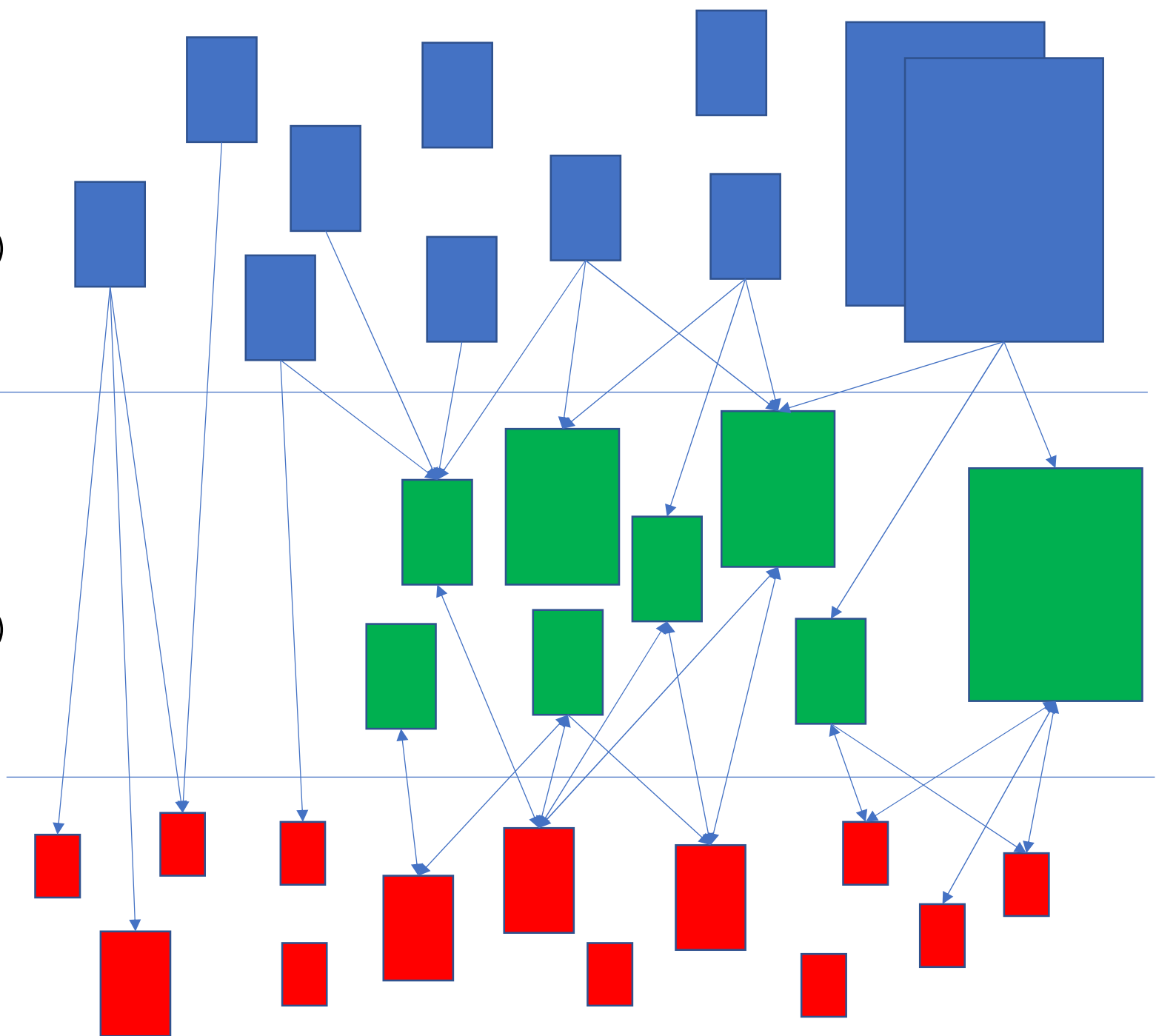
基盤層  
(世界知)



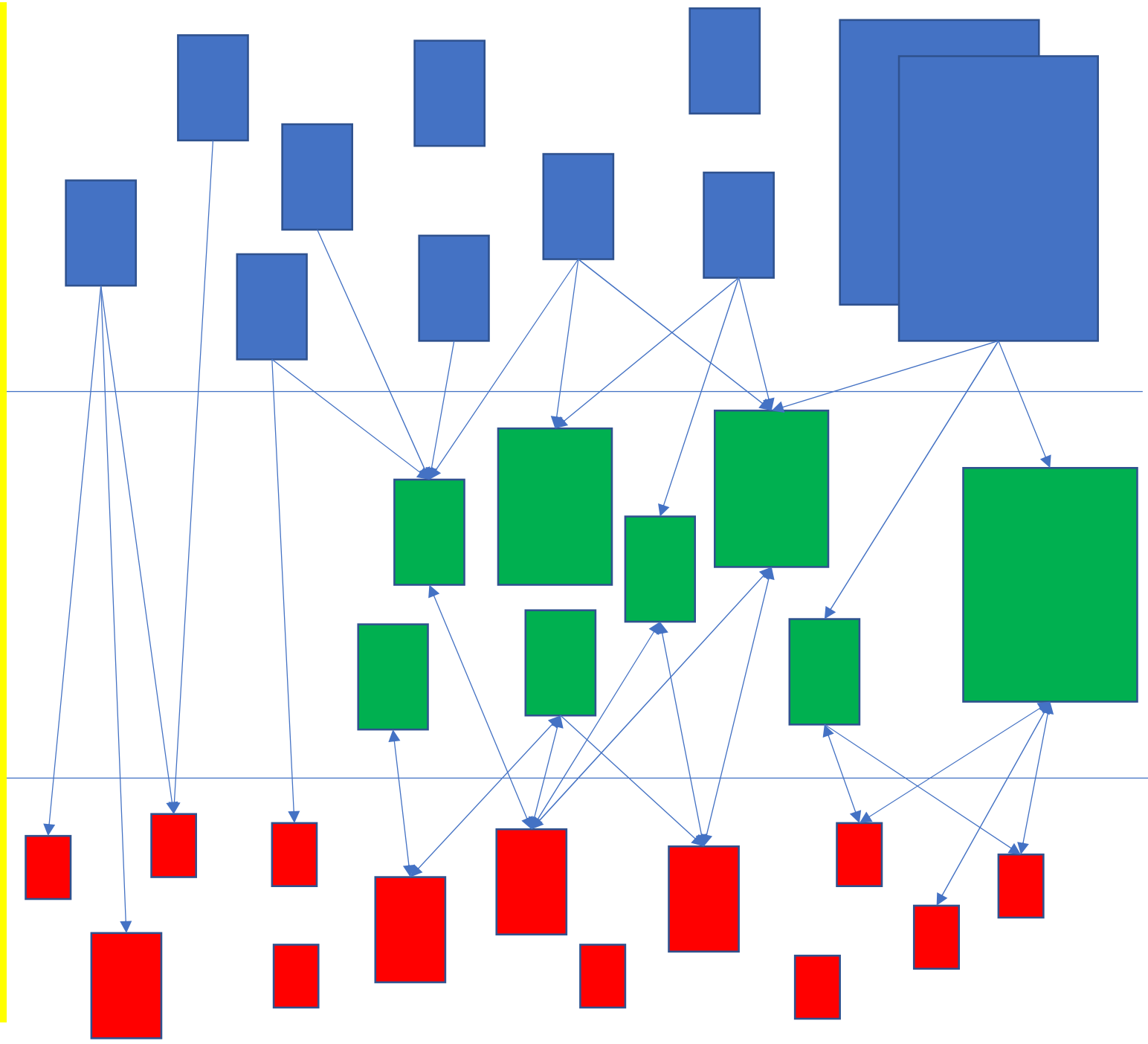
基盤層  
(世界知)

共有層  
(共同知)

利用層  
(個人知)



多層化資源マネジメント





ユビキタスコレクション

MICS（相互援用型コレクションサービス）

多層化資源マネジメント

# 文献

今日の話は、以下の文献を元に行っています。

宇陀則彦. デジタル世界にいまなにが起きているのか.  
未来の図書館研究所 調査研究レポート 2019,  
2020.3, vol.3, p.47-56.

- [http://www.miraitosyokan.jp/future\\_lib/annual\\_report/report\\_vol3.pdf](http://www.miraitosyokan.jp/future_lib/annual_report/report_vol3.pdf)